

○4 番（森英樹君）

4 番、森英樹です。私のほうから 2 点、質問させていただきます。

まず第 1 点目でございますけども、瀬戸内国際芸術祭 2025 について、伺いたします。

いよいよ来年が第 6 回目となる瀬戸内国際芸術祭でございますけども、第 1 回目は 2010 年に開催されて、15 年経過ということで、その間、知名度、そして芸術というものに対する理解度も、開催当時はなかったかと思われます。

私個人も芸術というものは特別なもので、もう一般生活の中ではなく、美術館、博物館に行き鑑賞するものだと思っておりました。

第 1 回目、私は感じましたのは、土庄中学の裏の宮ノ下の浜に鎖のネットを張ったりですね、前回の土庄本町、迷路のまちにも立入禁止プレート、あちらこちらにぶら下げて、あんなものも、あんなものというのは失礼ですけども、芸術、いろんな技術なんだなと感じて、私は、の中で芸術というものを身近に感じたものでございます。

島の中、恒久作品もあちらこちらに配置されておりまして、土庄港の太陽の贈り物。また、屋形崎の刻のはじめですかね、存在感を重ねていると感じております。

そういうことで、回を重ねるにつれて芸術祭の認知度も高まり、今では島民にも一定の理解が生まれていると感じております。

会期中は、全国からたくさんの来訪者がおいでになると思います。

また、小豆島がサステナブル持続可能な観光地として国際認証のシルバーアワードを受賞したことも後押しになると思います。海外からの来訪者も増加するのではないかと考えております。芸術祭に関していろんな見方がございましょうけれども、この瀬戸芸は、町にとって、観光や地域振興の観点で非常に重要なイベントと考えております。

そこでお尋ねいたします。

瀬戸芸の開催が土庄町の観光数や地域経済に与える影響について、どのように評価されているのでしょうか。経済効果や来訪者数のデータ、どのように総括されているのでしょうか、伺いたいと思います。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

それでは、森議員のご質問にお答えいたします。

瀬戸内国際芸術祭は、開幕当初から「海の復権」をテーマとし、瀬戸内の島々に活力を取り戻し、島の将来の展望、希望につなげることを目的に 2010 年から開催され、今回で 6 回目を迎えます。

瀬戸内の美しい景観と自然の中で流れてきた時間、文化、歴史を生かして、住民と協働して作品づくりを行い、島々に広く展開されることで、住民と作家、住民と国内外から来訪する観光客との交流が数多く生まれています。

また、芸術祭をきっかけに島の魅力を知り、ファンとなり、それが移住や定住につながるなど、地域の再生、活性化にも寄与しております。

小豆島・豊島を合わせた来場者数につきましては、2010 年は約 29 万人、2013 年は約 33 万人、2016 年は約 33 万人、2019 年は約 31 万人、コロナ禍での開催となった 2022 年におきましても約 33 万人と、芸術祭の開催される 3 年に 1 度、小豆島・豊島への入込客数を大きく押し上げる要因ともなっております。

また芸術祭全体の経済効果としまして、2010 年が 111 億円、2013 年が 132 億円、2016 年が 139 億円、2019 年が 180 億円、2022 年が 103 億円と、地域経済に大きな効果があったものと考えております。

観光地での地域間競争がある中、芸術祭が地域を活性化させ、小豆島・豊島の現代アートの島としてのイメージアップや認知度を広げていく上で、大きく寄与しているものと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

町が得た経済効果、またブランド力の向上についての評価は一定理解いたしますけれども、その一方で、観光業以外の分野への波及効果、例えば地域産業や、今先ほど申し上げました若者定住の促進の波及効果等を具体的にどのような数値的なものでも結構ですけれども効果があったか教えていただけますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

森議員の質問にお答えいたします。

具体具体のそれぞれのこう、個別の経済効果というのはちょっとはかりようがないんですけれども、例えばこの 3 年に 1 回行われる芸術祭につきましては、宿泊者数ですよね。それが、やっぱりホテル宿泊施設がいっぱいになりますので、そういったホテル宿泊業への経済効果というのはあると思いますし、もちろん小豆島・豊島、島ですから船に乗ってくる、そのときには当然船もいっぱいになりますし、そういった利用者も増えているだろうし、ということもあります。

調査によりますと、日帰りの方が使うだいたいの単価が、だいたい 6000 円から 7000 円ぐらいです。宿泊をされる方というのが、だいたい 2 万 6000 円ぐらいから 3 万円ぐらいの単価になりますので、そういったことを含めますとです

ね、今申し上げましたように 30 万人ほど来ていますので、それが比率はちょっと分かりませんが、日帰りのほうが 6 割で、宿泊者が 4 割あるとしましてですね、それを単価掛けますとですね、かなりの経済効果もあるのかなというふうに思っているところです。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

ありがとうございます。かなりの経済効果があるということは理解いたしました。

一方で、前回までの開催で、多分課題もあったと思うんですけども、どのような課題というんですか、私を感じますのは、交通渋滞、また、先ほどの宿泊施設の関係とかですね、作品の設置場所の周知不足とか、というようなことをちょっと感じておりますけれども、具体的に町としてどのような課題があって、次回、来年の瀬戸芸に活かそうとしているのかというようなところをお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

それでは、森議員のご質問にお答えいたします。

まず課題としましては、やはり森議員おっしゃるように、受け入れ体制のというのが課題となります。まず、二次交通への対応というのがやっぱり課題でありまして、過去の開催におきまして、多くの来訪者に対しまして、臨時便の増発ですね、バスなどをまず行っておりまして、これも今回引き続き豊島・小豆島両方におきまして、臨時便の増発をする予定であります。

また、現在、国の補助金などを活用しましてですね、バスにバスロケーションシステムを入れていく、あるいは電動モビリティを入れていくなどしましてですね、観光客の足の確保に努めていきたいというふうに今考えてるところです。

それから万博などの開催もありまして、多くの外国人の観光客が来ることが予想されています。そういった中で、多言語対応というところはやっぱり課題だと思っています。で、これまでもですね、インフォメーションボードであったり、あるいはパンフレットなどには、英語、中国語などの多言語の対応をしておるわけなんですけども、今回もそれはやります。それに併せてですね、今回は案内所に語学のできる人材、英語とか中国語ができるそういった人材を派遣していこうというふうに思っておりまして、また多言語が話せるような地域おこし協力隊もおりますので、そういった力も借りながらですね、多言語に対応していきたいというふうに思っているところです。

それからですね、豊島のほうになりますけれども、やはり救急体制、搬送体制というのがどうしても脆弱であるということがありますが、前回は救急救命士さんと、あと看護師さんを配置してですね、地域の自治会の皆さんであつたり、あるいは消防団の皆さんの多大なる協力をいただきまして、何とか乗り切ったところであります。

今回もですね、そういったかたちで、月金までは常備消防がいますけれども、土日祝につきましては、やはりそういったところ、救急体制が脆弱であるというところを踏まえてですね、引き続き、看護師であつたり、あるいは救急救命士さんをですね、配置するように今動いてるところであります。以上となります。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

いろいろとバスの増便とか、救急体制、海外がたぶんね、多く来られる中での対応とか、いろいろ考えてらっしゃるという中でですね、開催までちょうど4カ月ですけども、作品についてほぼ全容を把握されてると思うんですけども、地元住民の瀬戸芸の参加とか連携とかいうようなことは何か計画されているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

それでは、森議員のご質問のうち、地域住民との連携についてというところをちょっとお答えしたいと思います。

今現在確定している作品といいますか、全容がまだ確定しないところもありますので、なかなか具体の協同とかっていうのはちょっとお答えできないんですけども、これまでのアンケート調査なんかによりますとですね、来訪者の多くが地域住民との触れ合いを求める傾向にあります。また、地域住民の皆さまにも、作家との協働作業であつたり、来訪者との触れ合いにご理解をいただいております、新たな交流なども生まれております。

前回 2022 年の報告書によりますと、芸術祭来訪者の 55%がリピーターで、91%の方が「また来たい」というふうに回答しているという結果が掲載されております。こうした何気ない地域との触れ合いというものが芸術祭の大きな魅力になっているとも思われております。

地域の再生や活性化につなげることが、瀬戸内国際芸術祭の大きな趣旨の一つでありまして、町といたしましても、作家との協働による作品制作や、あるいは案内所等でのボランティア、また、島のお誕生会に代表されるような地域イベントなどを広く紹介してまいりたいと考えておりますので、ぜひ皆さま積極的

にご参加いただきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

まだ具体的な作品はどの場所に置くかとか決められて、まだ分からないというところがございます。あと 4 カ月ということでございますけども、それはもう致し方ないかなと思いますけども、前回、港でにぎやかなお見送りとかですね、あと、いろんなイベントを組み合わせで行っていたというふうに認識しております。

先ほど答弁でおっしゃられてました地域住民とのつながりというところで、このせっかくの 3 年に 1 回の瀬戸芸の中で、小中高生、学生さんがその瀬戸芸を通してどういうふうな学びをするかというところをちょっと学校教育の面から見て瀬戸芸の位置付けというのは教育長どうでしょうか。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 堀康晴君。

○教育総務課長（堀康晴君）

森議員のご質問にお答えいたします。

瀬戸内国際芸術祭の目的の一つには、次世代を担う子どもたちに芸術祭を体験してもらい、自分たちの将来を考えてもらうとともに、郷土への理解と愛着を深めてもらうということがあります。例えば、2019 年の芸術祭ではダンサーの後山阿南（あとやま あなん）さんが土庄中学校でダンスのワークショップを開催し、表現する楽しさを学ぶなどしております。

本年 9 月に瀬戸内国際芸術祭実行委員会では、今年度からの新たな取り組みとして「アーティスト×中学生交流プログラム」を実施すると発表しました。

本プログラムでは、中学生が自分たちの暮らしている地域の魅力を学ぶとともに、自ら考えて行動する経験をすることで、豊かな創造力を育み、人間性を磨き高める一助となることを目指し、芸術祭 2025 参加予定のアーティストが県内の中学校等を訪問して、講義、ワークショップを実施するとのことです。

教育委員会としまして、このような活動は、子どもたちにとって多くのことを学べる場として非常に良い機会となりますので、積極的に参加をさせていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

せっかくの 3 年に 1 度の瀬戸内国際芸術祭もいろんな方がおいでになりますので、より多く交流してですね、生徒の面から地域を再確認するというようなと

ころも、それによって生まれるかと思imasuので、ぜひ積極的にアクションを起こしていただけたらと思imasu。

次にですね、来年は県立体育館、香川ドーム、そして関西万博の開催と、人の流れが非常に多く変わってくると思うんですけども、この瀬戸内芸術祭の中でですね、小豆島にどのようにして誘客を PR していくのかということについて、お伺いしたいと思imasu。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

森議員のご質問にお答えいたします。

コロナ禍での制限のあった前回の芸術祭とは状況も変わり、また大阪・関西万博と同時期の開催ということで、国内外から多くの来訪者でにぎわうことが予想されます。現在、国の補助金を活用した観光地の整備や2次交通の強化、またインバウンド対応などに取り組んでいるほか、民間の力を活用したエリア開発事業などにより、観光客の受け入れ環境の整備を進めているところです。

6 回目を迎えます芸術祭を通じて、来る側も受け入れる側も、それぞれが満足するような関係を作っていくことが、地域全体の持続可能な発展につながるものと考えております。芸術祭をフックに、併せて持続可能な観光に先駆的に取り組む地域として、島の持つポテンシャルを最大限に生かしながら、「選ばれる観光地」を目指してまいりたいと考えております。よろしくお願ひします。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

人の流れが大きく変わるだろうということで、小豆島としてこうアピール、来てくださいよというアピールはどのようにお考えでしょうか。施策としてやってるのかどうかということも含めてお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

では、ご質問にお答えします。

土庄町独自の施策とも併せて、瀬戸芸と両方で一緒に組み合わせながら集客をしていく、あるいは PR していくっていう考え方でありまして、例えば土庄町ではですね、今キラコンテンツになっていますアニメを活用したまちづくりなんかもあります。そういったものもありますし、最近では映画化もされましたし、そういった、いわゆるフィルムコミッションとかですね。映画とかドラマの撮影地として、もう小豆島認知されておりますので、そういったアニメとか映画

などの聖地巡礼に来る方もおいでだと思います。それと併せて瀬戸芸を楽しんでもらうであつたりですね、あるいはいろんなクライミングの聖地も今、大部のほうにありますし、あるいは食とかもたくさん今ありますから、そういったお素麺とかお醤油とか、最近ではサミットなんかもありましたので、そういったものを瀬戸芸とうまく組み合わせながら発信していく。そのことによって、瀬戸芸をフックに小豆島全体、小豆島のいいものをよりよく知ってもらう、そういったPRを今までもやってきましたけども、今後もそういったことを続けてまいりたいというふうに考えております。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

瀬戸内国際芸術祭、土庄町の魅力を内外に発信する非常にいい、観光や地域振興、一大内外にアピールする重要なイベントだと思っております。

一方で住民との連携や課題への対策が鍵になることを改めて感じております。住民の意見を丁寧にくみ取りながら芸術祭を成功させるとともに、地域振興、持続可能な取り組み、ものにする取り組みを、さらに進めていただきたいと思います。

次に、土庄町文化財の指定についてお伺いしたいと思います。わが町の文化財についての考え方を質問したいと思います。

今年に入り、肥土山地区と中山地区、合わせて小豆島農村歌舞伎として、国の重要無形民俗文化財に指定されたこと、非常に喜ばしい出来事でした。

また、国の天然記念物、宝生院のシンパクしめ縄が張りかえられたという記事もあり、記憶に新しいところでございます。土庄町誌続編、平成20年に発行された文化財の欄でございますけれども、郷土の歴史と風土の中で培われてきた文化財は、私たちの文化と歴史を物語る極めて重要な記念碑であるとあり、これらの文化財を大切に保存し、後世に伝えることは私たちの責務であり、文化の向上に欠かせないものであります。

そこでまず、何点かお伺いいたします。

町内にある文化財は、どのように分類され、現在何件あるのか。

また、新たに文化財を受けるにはどのような手順が必要なのか。

また、文化財に指定される基準や根拠について教えてください。とくに指定にはどのような評価ポイントが重要になってくるのかというのが分かれば教えてください。

○議長（濱野良一君）

生涯学習課長 岡本高志君。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員のご質問にお答えいたします。

まず 1 点目の件数についてでございますが、町内に所在する指定文化財の件数は、有形文化財が 41 件、民俗文化財が 17 件、記念物が 28 件、合計で 86 件となります。

2 点目の手順についてでございますが、文化財の指定につきましては、文化財保護法第 2 条第 1 項に規定された文化財について、土庄町文化財保護条例第 3 条の規定に基づき指定を行うことになります。

具体的には、歴史的、文化的、または芸術的な価値に基づいて評価され、町内にある文化財のうち、重要なものについて指定を受けようとする方が、教育委員会へ申請を行っていただきます。この申請を受けた教育委員会は、学識経験者から構成される町文化財保護審議委員会に諮問を行い、同審議会が審議した結果、指定に相応と判断した場合は、その旨を教育委員会のほうに答申を行います。この答申を受け、教育委員会が指定を行うことになります。

3 点目の指定される基準についてでございますが、評価基準につきましては、国や県の指定基準を参考に、町内に所在する文化財のうち、特質して重要であるものが、有識者の調査結果により、客観的に証明されることが重要となっております。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

私、文化とはちょっとほど遠いところにおりましたので、ちょっと勉強させていただいたんですけども、平成 28 年 3 月現在で、土庄町の文化財という小冊子がございますけども、それに 86 件とありますけども、それから全く増えてないという解釈でよろしいのでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

平成 28 年度からは増えておりません。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

新しく申請とかもないということで理解してよろしいんですか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員のご質問にお答えいたします。



新たに指定を検討している文化財につきましては、所有者から今、個別に相談を受けているものがございますが、現在、相談を受けている最中の個別案件となりますので、具体的な内容についてはお答えを控えさせていただきます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

動いているという解釈で受けとめます。

指定なんですけども、指定を受けた場合、所有者またその管理者はどのような義務を負うのか教えていただきたいと思います。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員のご質問にお答えいたします。

土庄町文化財保護条例第 5 条の規定により、町指定文化財の所有者または管理者は、教育委員会の指示に従い、指定文化財の保存、管理を行うこととなります。例えば、町指定文化財の所有者変更、所在場所の変更などをした場合は、速やかに教育委員会への届出が必要となります。また、修繕などにより現状変更をしようとする場合は、教育委員会の承認を受ける必要があります。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

その指定を受けてですね、町として指定を受けたところに何か支援とかがあるんでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員のご質問にお答えいたします。

町内にある文化財を保護するための支援策につきましては 2 点ございます。

まず 1 点目は、指定文化財所有者または管理者の相談に対する指導および助言を行っております。

2 点目につきましては、指定文化財所有者または管理する団体および個人が所有する保護事業に対しまして、土庄町文化財保護事業費補助金交付要綱に基づきまして、補助金の交付を行っております。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

その指定を受けた物品を、例えば刀を持ってカビが生えたと、さびが出てきたということをどうしようかということになれば、町のほうに相談受けたら、相談に乗って、ちょっとこういう場合があるよというアドバイスをいただけるということでよろしいんでしょうかね、と認識しております。

現在、町が所有している考古資料。例えば町指定の古文書、土庄本町、所有者土庄町とありますけども、これはどのように保有、保管しているのか。その1点お聞かせいただきたいと思います。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員のご質問にお答えいたします。

町が保有している考古資料等の保管につきましては、保管用の棚に仕分けを行い、とのたる館2階などの保管室のほうに保管を行っております。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

すいません、細かく追及して。この古文書を拝見してくれという要望があれば、すぐに見せられる状況でしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員のご質問にお答えいたします。

公開に関しましては、文化財の価値を知っていただくために、適切な環境下での提示や公開を行うことは重要と考えておりますが、文化財の損傷や劣化の恐れがあるため、現在は公開はしておりません。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○4 番（森英樹君）

私も文化財にほど遠いところでいろいろ勉強させていただきまして、非常に地味なところでございますけども、町民の生活に直接影響せずに、関心の薄いところでございますけども、町の文化財の保存は、地域の歴史や文化を次世代に継承するために非常に重要であり、指定後の管理負担が適切に軽減される仕組みが必要かと思います。

町主体となって支援策を拡充し、文化財の所有者や地域住民の協力を得ながら、保存活動を一層推進していただきたいと思います。以上です。ありがとうございます。

ざいました。